

～こんなことから生まれる協働(例)～

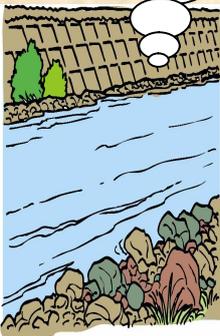
3.防災面

毎年訪れる梅雨。この時期は、心・体共に憂鬱さや不快さを感じるとともに自然災害への危険性も増してきます。

1時間に相当量の雨量を記録するなど、各地域の川等では警戒水位を超え、床下・床上浸水の発生も心配される中、自ら対策しようにも労力が限られ、時には命の危険にさらされる場合もあります。

こんな時、あなたはどうしますか？

梅雨の時期、自然災害の発生が心配されます。



1

床上・床下浸水や家屋及び周りの施設の損壊が発生し、不安で危険です。



2

消防団やご近所の協力により、被害を最小限に食い止めることができますよね。



3

近くの人の素早い協力によって、お互いに安全・安心な生活が保たれるのでは？



4



ちょっと考えてみましょう。

日頃から災害に備えた地域内での話し合いと連絡体制を整えるなどご近所と協力し、応急処置を施すことや地区消防団及び行政と被害拡大を防ぐため共に行動することも協働です。

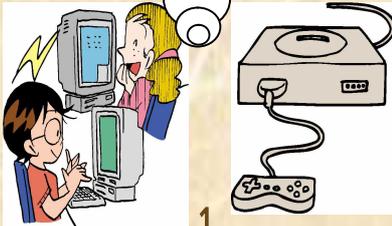
～こんなことから生まれる協働(例)～

4.教育面

近年のテレビゲーム等の普及により、人と会話する機会が減り、更にはどうすれば友達づくりができるか分からないなどといった諸問題もあるようです。

また、それらが身体に及ぼす影響は様々で将来を担う子ども達の人格形成に大きく関わりを持つものと考えられます。

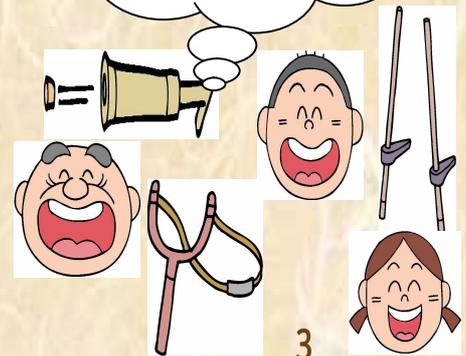
パソコン・インターネットの普及。顔と顔を会わせ、言葉で会話する機会が減少。



何をどう伝え、表現して良いのか分からない。



昔遊びを通してコミュニケーションの促進。



地域での交流を深める機会が増え、子どもも大人も相互に地域で守る意識が芽生えます。

ちょっと考えてみましょう。

地域に住む人達が持つ技術や昔からの伝統的昔遊びを子ども達に伝える機会を作りましょう。

地域に住む他の子ども達を知り、交流を深める機会となることはもとより、自分の存在を地域の方々に知ってもらうことでの満足感や日々の安全確保にもつながります。

子どもには、地域の異年齢交流による昔遊びを通して、敬いの心と地域を大切にしたいという心を育み、次代のまちづくりを担う人材の育成につなげることができるのではないのでしょうか。

4

